【各検査項目別のリスク・副作用・限界に関するご案内】

【採血（血液検査）】

- **想定されるリスク・副作用**：
  - 穿刺時の痛み、穿刺部位の出血や皮下出血（あざ）。
  - ごく稀に、血管迷走神経反射（気分不快、めまい、失神など）が起こることがあります。
  - 極めて稀ですが、穿刺後の感染や神経損傷の可能性があります。

- **検査の限界**：
  - 血液検査は、採血時点での身体の状態を反映するものです。体調、食事、ストレスなどにより数値は変動します。
  - 基準範囲内であっても、病気が完全に否定されるわけではありません。

【胸部 X 線検査（レントゲン）】

- **想定されるリスク・副作用**：
  - ごく微量の放射線被ばくを伴います。この線量は健康に影響を及ぼすレベルではありませんが、妊娠中またはその可能性がある方は必ずお申し出ください。

- **検査の限界**：
  - 心臓や骨、血管などと重なる部分にできた病変や、ごく小さな病変は発見が困難な場合があります。

【上部消化管 X 線検査（胃バリウム検査）】

- **想定されるリスク・副作用**：
  - ごく微量の放射線被ばくを伴います。
  - 検査後の便秘、腹部膨満感。検査後は水分を多く摂取し、下剤を服用してください。

- ごく稀に、バリウムの誤嚥（気管に入ること）や、腸閉塞、消化管穿孔（穴があくこと）のリスクがあります。
- バリウムや発泡剤に対するアレルギー反応（発疹、気分不快など）が起こることがあります。

- **検査の限界**：
- 粘膜の微細な変化や、平坦な病変の発見は困難な場合があります。

【上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）】

- **想定されるリスク・副作用**：
- 検査による咽頭や食道の不快感、痛み、出血。
- ごく稀に、消化管の穿孔（穴があくこと）や出血が起こる可能性があります。その際は追加の処置や入院が必要となる場合があります。
- 鎮静剤を使用した場合、眠気やふらつき、呼吸抑制、血圧低下、アレルギー反応などが起こることがあります。検査当日は車や自転車の運転はできません。

- **検査の限界**：
- 粘膜下の病変や、ひだの間に隠れた微小な病変は発見が困難な場合があります。

【腹部超音波検査（エコー）】

- **想定されるリスク・副作用**：
- 身体への負担が少なく、基本的に安全な検査です。検査ゼリーによる皮膚のかぶれが起こることがあります。

- **検査の限界**：
- 皮下脂肪の厚さや腸内ガスの状態によって、臓器が見えにくくなる場合があります。
- 膵臓や胆管など、体の深部や他の臓器の裏側にある部分は観察範囲が限られます。

【CT 検査（胸部・腹部など）】

- **想定されるリスク・副作用：**
  - X 線検査よりは多い放射線被ばくを伴います。

- **検査の限界：**
  - 微小な病変や、正常組織との区別がつきにくい病変の検出は困難な場合があります。
  - 金属製の体内インプラントなどがあると、画像の質が低下することがあります。

【腫瘍マーカー（オプション検査）】

- **想定されるリスク・副作用：**
  - 採血に伴うリスク以外に特有のものはありません。

- **検査の限界（※特に重要な注意喚起が必要）：**
  - 腫瘍マーカーは、がんの診断を確定するものではなく、あくまで補助的な検査です。
  - がんでなくても、加齢、喫煙、良性疾患、炎症などによって数値が上昇すること（偽陽性）があります。
  - 逆に、がんが存在していても数値が上昇しないこと（偽陰性）もあります。
  - この検査結果のみで自己判断せず、必ず他の検査結果と合わせて医師の総合的な診断を受けてください。